



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

「乾癬様皮疹を続発した Hailey-Hailey 病」を読んで

本誌8月号の臨床例を興味深く読みました。長期間経過を追った貴重な症例をご提示いただき、ありがとうございます。以下に感じた点、疑問点などを列挙します。

①項部の環状の局面

Hailey-Hailey 病 (HHD) にしても臨床像は湿潤性紅斑局面ではなく非定型的で、部位も変わっています。典型的な皮疹も間擦部にみられたようですが、HHD で間擦部以外（背中など）に皮疹が生じた場合も、このような乾燥した局面ではなく湿潤傾向を伴う局面だとこれまで思ってきました。項部になぜこのような皮疹がみられたのか、興味深い点です。

②後から出てきた背部の皮疹について

臨床的に、乾癬の乾いた角化性紅斑局面ではなく、鱗屑を除去すると湿潤してきそうな印象があり、組織学的にも Munro 微小膿疱ではなく Kogoj 海綿状膿瘍なので膿瘍性乾癬に近い印象を受けます（肉眼的に膿瘍はみられなかったのでしょうかけれども）。

③考察

HHD と乾癬の合併例の経験がないので勉強になりました。主に2つの論文を取り上げて解説していますが、一方は両者の組織学的な共存が高頻度にみられる

とするもので、もう一方はその逆（乾癬が HHD の発症を抑制する）でした。旧い論文なので読むことはできていませんが、興味深い考察です。

乾癬が発症する前から、HHD の遺伝的素因があるので、乾癬病変を生検すれば同一切片上に表皮棘融解の所見がみられるのは納得できます。遺伝的疾患、あるいは後天性疾患でも発症後は、一見正常部を検査しても診断に必要な所見が得られるのと同じです。また、HHD が乾癬の病理組織学的所見を呈しにくいことや、逆に乾癬が HHD の発症を抑制する可能性についてですが、HHD の好発部位の間擦部は乾癬では非好発部位（もしあれば psoriasis inversa）で、HHD が乾癬の発症を制御するなら inverse (reverse) Köbner かもしれません。通常は局所のサイトカインバランスで説明されるのですが、乾癬と HHD はどうなのでしょう。引用文献自体は旧いものですが、考えはいまに通じる面白いもので、今後もし該当症例にお目にかかれれば、新しい観点から考えてみたいと思いました。

いずれにしろ、いろいろ考えることの多い症例で、本誌には、典型例ばかりではなく、この臨床例のようにディスカッションポイントがいくつもあるような症例を掲載していただくと読み応えがあると思いました。

ペンネーム：乾癬と Darier 病の合併は？
(東京都)